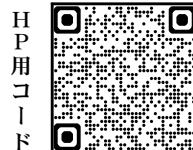


鳥海の子

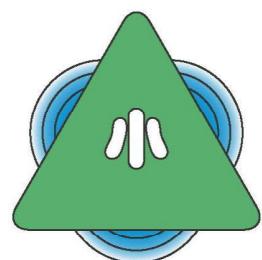


～明るく・かしこく・たくましく～

令和7年度 学校報 No.42 文責 校長 吉田 **

コミュニティ・スクールだより

由利本荘市立鳥海小学校 令和8年1月30日



「スキー教室」へのたくさんのご協力に感謝いたします！



全校を代表し七名より
感想発表&お礼の言葉

現在も居座っている「最強・最長寒波」が列島を襲い始めた先週22日（木）、年1回の「スキー教室」を無事に終えることができました。これも偏に、鳥海スキークラブの方々と全校の約8割にのぼる保護者の皆様が参加してくださり、指導と補助を最後まで丁寧に行ってくださったお陰です。「晴れ間がのぞく中で、スキーの楽しさを教えてもらひながら、友だちとワアワア、キャーキャー楽しく滑る」という理想的な思い出づくりをさせたい、でも「吹雪のために視界が悪く転倒して怪我をした、人にぶつかって怪我をさせてしまった」という嫌な思い出が残るような結果ではいけない。学校は、子どもたちの安全確保を最優先に考えます。ですから、マンツーマン指導や補助ができるくらいに大人がすぐ近くにいてくれる状況、環境が無事に終えられたことに直結していると感じます。本当にありがとうございました。

【先発職員によるシートや貼り紙等の迎える準備】



【マナーよく利用しています】



【補助の方も緩斜面の上まで】



「第2回由利本荘市コミュニティ・スクール連絡協議会」29日に開催

本校C S会長の真坂**様、C S委員兼地域協働活動コーディネーターの眞坂**様、中学校からは鳥海地域C S会長の佐藤**様に出席していただきました。会では、今年度更にはこれまでの学校運営協議会の取組について振り返るとともに、今後の在り方について熟議が行われました。本地域の課題の一つに「C S委員と児童生徒、教職員の交流の場が少ない」ことが挙げられ、事業ごとに交流の場（言葉を交わす機会）を設け、少しずつ増やしていくことで話がまとまりました。学校としても中学校と連携を図りながら、内容の工夫と時間調整を考えていきたいと思います。

次ページは、今年度の主なC S活動の振り返りシートです。これは、市内の各小中学校で毎年作成して市教育委員会へ提出しているものです。本校における取組の一部ですが、どうかご確認ください。

<令和7年度コミュニティ・スクール活動の振り返り>

『『一人一人が主役』を基軸とした教育活動の柱の一つとして』

由利本荘市立鳥海小学校



【側溝整備のお陰でそば畑の水はけがよくなりました】



【そばの実の刈り取り（上）みんなでそば打ちも体験（左下）これまでお世話になったみなさんとの交流会（右下）】



【今年度から高学年で本格始動】
「本海流鳥海獅子舞～子どもVer」



「地域密着体験型」キャリア教育を柱に

低・中・高学年それぞれが地区内の様々な場所に出向き、ふるさと鳥海にある豊かな教育素材を活用した体験活動を行った。中でも今年度から更に地域との連携強化を図った活動として中学年が取り組んだ「そば体験活動」と、高学年が取り組んだ「本海流鳥海獅子舞～子どもVer」がある。

鳥海ダム本体工事に携わっている西松建設様からご協力をいただき、毎年そばを栽培している畑に側溝を整備していただいたり、草刈りやそば打ちの手伝いをしていただいたりした。これまで、地元の直根栄寿会と鳥海スクール・サポートーズ倶楽部の方々の協力を得ながら取り組んできた活動だが、その中に西松建設の社員の方々にも加わっていただき、より充実した取組に発展させることができた。また民俗芸能においても、これまで取り組んでいた「貝沢からうすからみ」に代わって、今年度から子どもバージョンにアレンジした「本海流獅子舞」に挑戦した。本市民俗芸能伝承館まい一館長の高橋様より獅子頭や衣装等をお借りしながら直々に指導していただき、小中合同学校祭で披露することができた。2月下旬の生涯学習発表会においても「天神あやとり」と「前ノ沢太鼓」の二つの民俗芸能も一緒に発表する予定である。

これらの他にも、今年度は「鳥海町民歌」を歌えるようになろうと小中学校で練習を重ね、合同学校祭で披露した。町民歌だけに、ふるさと鳥海を象徴するメッセージ性の強い歌詞のため、歌うたびにふるさとのよさに触れ、郷土愛を一層育むことができたのではと感じている。

「持続可能なコミュニティ・スクールだからこそ、保小中相互の情報共有が大切」

保育園のクリスマス発表会のオープニングで、園長先生が和太鼓で軽快にリズムを刻み、鳥海中の学校運営協議会委員の方が横笛を吹く中、園児たちが廃材となった段ボールで作った獅子頭を手に入場してきた。観客の頭を噛んでみせたり踊ってみせたりして大いに盛り上げた。これを観た時に、保・小・中の連携を一層強化し、15年間で地域の宝と言える子どもたちの成長を支えていく必要があると改めて感じた。私の出身地である羽後町でも、保育園児が保存会の方々から盆踊りを教わり、小学校でも同様に続け、中学校1年生では西馬音内地区に限らず全員が学校祭で踊っている。更に、盆踊りクラブ所属のメンバーは3日間ある本番も踊り、文化継承の一翼を担っている。

民俗芸能を継承していくためには、コミュニティ・スクールの存在とその関わりが大きく、もっと保育園と小中学校が人材や取組内容について情報を共有し合っていくことが大切と感じている。